

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神崎市立西郷小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上への取り組みが、日々の授業や家庭学習の充実につながるようにすると共に、学習状況調査等の結果に表れるよう更に改善・工夫を行う。</li> <li>校内研究「ESD」では、前年度の成果と課題を受けて、2年計画2年次の取り組みを充実させる。</li> <li>若手育成を充実させ、全職員が一丸となって教育目標達成に向かえる組織づくりを行う。</li> </ul>
2 学校教育目標	教育目標「一人一人が意識して学びの道にいそむ西郷っ子の育成」 校訓 ～学び愛し翔る西郷小～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子供達一人一人が落ち着いて学習に取り組み、友達と協力しながら社会性を身に付けていく学校づくりを行う。</li> <li>②校内研究「ESD」の充実を図る。</li> <li>③全ての職員が組織の一員として協働すると共に、共通理解・共通実践を行うことで「凡事徹底」を図る。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有し、校内研修等により、取組の促進を図る。	B	・全職員のマイプランと行動目標を常時目にするところに掲示することで、共有化を図った。 ・成果指標1は75%、成果指標2は76%、成果指標3は63%と達成率は目標を下回っている。児童の実態に合わせて、各自で追加・修正を行い取り組んでいる状況である。					
	○45分間(1単位時間)で完結し、児童が「『分かった』から『できた』へ」を実感できる授業実践	○「振り返りを書くことができる」「自分の考えを書くことができる」の質問に対して肯定的な回答をする児童が80%以上にする。 ○次時の学習につながる家庭学習に取り組むことができる児童が90%以上にする。	・「めあて」「振り返り」のある授業実践を行う。 ・目的や条件に応じて自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・「算数音読」の実践を推進する。	B	・提案授業をもとに、「めあて」を意識しながら学習が進め、観点をしぼって「振り返り」を書かせることを全職員で共通理解を図った。 ・各学年の実態に応じた算数音読に取り組み、予習的に問題を解いて授業に臨む児童も見られるようになってきた。					
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をする保護者85%以上、教職員・児童90%以上にする。	・ふれあい道徳を授業参観に設定し、礼儀、生命尊重、友情、規則の尊重等を主題にした授業を保護者や地域に公開する。 ・人権週間で、読み聞かせや「ぼかぼかことば」等の活動を通して人権意識を高める。	B	・平和集会では、読み聞かせや戦争についてのスライドを通して、平和について全校で考えることができた。 ・人権週間については、2学期に実施する予定としている。					
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月の「こころのアンケート」、年に2回のいじめアンケートやQUTテストを実施し、いじめ0を目指す。(100%実施、「学校は楽しい」を90%以上)	・実態把握を行うことで早期対応に努める。 ・アンケートをもとに児童の観察を行う。必要に応じて児童と面談を行う。 ・家庭との連携を図る。 ・学校便りや学級便りを取り組みについて知らせしていく。	B	・毎月「こころのアンケート」を行い、早期対応することができた。今後もアンケートや児童の観察をもとに、保護者と連携しながら、いじめの無い学校を作っていきたい。 ・7月のアンケートでは、「学校が楽しい」と答えた児童が87%だった。更に意識を高めていきたい。					
	○特別支援教育の体制作り	○特別支援教育のあり方や校内環境整備(ユニバーサルデザイン)について全職員で共通理解をする。 ○研修会を年間に3回以上実施する。(達成率100%)	・日付、日直等は後方黒板等を使う。 ・4月に配慮を要する児童の共通理解。8月以降講師招聘の研修会・事例研修会を行う。 ・通常学級の児童に向けて、特別支援学級についての話をする機会を設ける。	B	・8月に教育相談と特別支援教育の研修会を開き、全職員で特別支援教育についての知識を深めることができた。 ・通常学級の児童に向けて特別支援学級について話をする機会は、5年生のみ実施することができた。引き続き他の学年でも実施していく。					
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上。	・食育の計画に応じて、栄養教諭や養護教諭と連携LICTを活用した授業を行う。 ・朝食摂取率のアンケートから実態を把握し、朝食摂取の励行を図っていく。	A	・朝食調べを6月に実施した。結果をお便りにして10月中旬に配布予定。 ・10月、11月に栄養教諭や養護教諭と連携した授業を実施予定。 ・朝食に関する項目において、児童・保護者共に90%を以上の肯定的な回答を得た。					
	○望ましい生活習慣の形成	○「8時間以上の十分な睡眠がとれている」と答える児童70%以上。	・月に一度のノーメディアデーを実施する。 ・保健だよりや学級通信で睡眠について、共通理解を図る。 ・清潔検査の項目に挙げ、適宜確認することで、児童が意識できるようにする。	B	・テレビやゲームの時間についての項目において肯定的な回答が65%以下となっていた。 ・具体的取り組みを確実に実施できるよう、連絡会等で適宜呼びかけたい。 ・清潔検査の結果を保健便りや児童や保護者にフィードバックし、睡眠時間・スクリーンタイムに関する話題提供を図りたい。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定(毎週金曜日) ・業務記録票等による振り返り実施 ・管理職による個別指導	B	・業務記録票により各自振り返りを行い、勤務時間の適正化を行うことができていた。7月の時点で超過勤務が45時間を超える職員は2名いるので、超過月が連続するようであれば個別の指導を行う。					
	○業務改善に向けたPDCAの実施	○職員へのアンケート「職場環境チェック(7月・12月実施)」における業務改善の項目にて、肯定的な回答90%以上	・「西郷ボックス」等ファイル管理の一元化による情報の効率的な共有 ・行事終了後即時振り返りを行い、事後プランを立てることで、効率的に次年度に生かす。	B	・「口数が少なくなってきた職員がいない」33%、「管理職が相談を受け入れる余裕がある」72%、「校務分掌の負担が偏っていない」62%、「残業が多くなりすぎないように工夫されている」72%等の項目が低い結果となったので、改善の必要性がある。					

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○凡事徹底を図る指導	○学習面や生活面において凡事徹底を図る指導の充実	○学校アンケート(職員)において分掌事務や学級経営等において具体的な指導を行っているとの回答90%以上	・職員連絡会や生徒指導部において学校の課題や共通実践事項の共有を行うと共に振り返りの機会を設ける。	B	・7月の学校アンケート(職員)では主に学力向上面でB評価(85%)に満たない項目があった。校内研究や学力向上コーディネーターによる研修を通して、日々の授業の充実を図っていく。					
○ESDの充実	○全職員でESDに取り組み、持続可能な社会の担い手づくりにつながる教科横断的な教育課程を実践する。	○校内研究の職員アンケートを実施し、ESDへの取り組みや、単元構成の工夫、探究的活動の実践に関する質問に対して、肯定的な回答をする職員の割合85%以上	・地域の「ひと・もの・こと」を活用した単元構成の工夫、深化 ・「ESDカレンダー」への追加、修正を行い、教科横断的な教育課程を実践する。 ・「ESDボード」「ESDコーナー」の掲示内容の工夫	B	・校内研修で地域教材を生かした単元づくりを行った。単元の内容について修正を図りながら、1学期の学習を進めていくことができた。 ・2学期も引き続き、単元構成の工夫、深化を行いながら学習に取り組んでいく。					

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------